

平成22年度

**優れた教育活動表彰**

## 1 学校 (21校)

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
出雲市立朝山小学校	三 木 恭 二	平成19年度から鳴門教育大学の准教授と共同研究を積み重ね、今年度はその集大成として「朝山幼稚園、小学校 保幼小一貫教育研究発表大会」を実施した。平成22年度幼小連携講座実践発表校等の実践により県内の幼小連携のあり方について、望ましい幼小連携のあり方、進め方等について提案した。島根県の幼小連携のモデル実践校として寄与している。
出雲市立平田小学校	藤 村 八 郎	子どもの自主的な問題解決の活動を大切にする指導方法の工夫について、研究実践校として取り組んだ。また、理科に関する環境づくり、理科支援員や出雲科学館との連携により、子どもに自然の事象・現象に対する興味、関心をもたせる取組を積極的に行った。島根県の理科教育の先進的なモデル校として寄与している。
益田市立桂平小学校	倉 橋 宏 明	道徳の時間と教科・特別活動等との密接な関わりを図る取組を行って、全校の児童が「道徳は大切な学習」という意識をもつようになった。平成20・21年度道徳教育実践研究事業研究指定校（文部科学省）として、本県の道徳教育に大きく貢献し、今年度は、これまでの成果をもとに、道徳の時間の授業づくりの工夫に力を入れた実践研究に継続的に取り組んでいる。
大田市立五十猛小学校	板 倉 富 士 夫	平成21年度に「学校図書館パワーアップ事業」を受け、広く地域の協力を得ながら大規模な学校図書館の改造を行い、機能を飛躍的に充実させた。整備後の図書貸し出し数は4倍に伸び、不読の児童はいなくなった。学校全体で行う学校図書館活用教育の先進的な取組は、西部地域における模範であり、本県の学校図書館活用教育に寄与している。
大田市立久手小学校	原 田 敏 隆	平成21年度に「学校図書館パワーアップ事業」を受け、地域の協力を得ながら学校図書館の環境整備を行い、明るく親しみやすい学校図書館へ改善した。「図書館の改造」「図書館活用教育」「本に親しむ活動」の実践をホームページで積極的に情報発信している。西部地域における先進的な取組として本県の学校図書館活用教育に寄与している。

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
安来市立宇賀荘小学校	下 前 克 己	平成18年度から学力向上パイオニアスクールとして、算数科を中心に学力向上に取り組み、成果を上げている。また、「わがまち発信プロジェクト」の指定を受け、地域住民との連携のもと、野菜づくりから販売、その収入を環境保護活動に活用するなどダイナミックな構想を実現させ、主体的に学ぶ児童を育成している。昨年度から、豊かな表現ができる子どもの育成を目指し、言語環境や言語活動についての実践を全教職員で一丸となって取り組んでいる。
安来市立布部小学校	岸 雄 二	地域や保護者との連携・協力によりふるさと教育を展開している。全校活動では本年度で25年を迎える「椿油づくり」に取り組み、郷土愛や愛校心の涵養を図っている。この活動は地域交流の場となっており、児童に社会性が身につくほか、高学年のリーダーとしての意識を高めること、教職員も地域の自然や伝統技能を知ることによって地域理解を深めるなど大きな成果を上げている。
津和野町立日原小学校	大 谷 泰 生	独自の学級交流員制度を設け、学級の要請に応じて多彩な場で交流がなされ、ふるさと日原の「ひと・もの・こと」を活用したふるさと教育が精力的に進められている。「実践交流会」で発表した「清流日本一」を再度目指した高津川についての取組は、「自分たちもできることをしなければならない」というクラスの共通認識をもった調査や活動である。
隠岐の島町立中条小学校	池 田 和 広	30年来「愛郷雄飛」の心を育てる教育に取り組んでおり、その根幹にはふるさと教育がある。校区は八尾川と銚子川が流れる田園地帯で、川や近くの銚子ダムに関する治水、取水等に学習を発展させ、地域の人々の協力を得ながら、米づくり体験などを通して地域産業に関する学習に取り組んでいる。校区の隠岐国分寺の蓮華会舞の保存・継承にも地域と一体になって取り組んでいる。
松江市立第四中学校	勝 部 浩 司	学力調査結果を分析し自校の課題を明らかにしながら、小中一貫学力部会を設け、小学校との連携のもと、学習習慣の定着、授業改善について取り組み成果を上げている。授業では、「習得」「活用」の場面を設定し、生徒の意識の集中化を図る授業づくりを全教科で実践している。また、放課後を活用した生徒の希望別による個別指導や学習の手引きの作成、自学ノートによる取組など他のモデルとなる実践をしている。

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
益田市立西南中学校	福 田 政 隆	「弁当の日」の取組を通して、自分の健康を考え、自立できる生徒の育成を目指している。家庭や地域との連携も図られており、成果が表れてきている。食習慣の改善のみならず自分に自信がもてるようになったことや、家族や地域の方とのふれあいを通して、豊かな人間性の育成にもつながった。実践発表を行い、管内の小中学校からも注目されており、食育のモデル校として貢献している。
大田市立北三瓶中学校	秋 風 光 規	心に響く道徳の時間にするため、体験活動を効果的に取り入れた実践や、コミュニケーションを大切にした道徳の推進に努めた結果、コミュニケーション力、自己表現力が豊かになった生徒が増えた。平成20・21年度道徳教育実践研究事業研究指定校（文部科学省）として、本県の道徳教育に大きく貢献し、今年度は、これまでの成果をもとに実践研究に取り組んでいる。
吉賀町立蔵木中学校	青 木 桂 一	校内組織に学習支援部をおき、自主的な学習態度の育成と基礎的・基本的な学習内容の定着を目指して、全教職員でさまざまな取組を行っている。「学習の手引」の作成と毎年の見直し、「自学ノート」の配布と担任・校長によるチェックと励ましなどにより、生徒の学習習慣の定着や意欲の向上などの成果が上がっている。学力向上の取組は注目されており、モデル校として貢献している。
海士町立海士中学校	宇 野 和 福	平成17年度の文部科学省「キャリアスタートウイーク推進地域」の指定を機に、それまでの「生活学校」と「職業体験学習」を組み合わせた連続5日間の「職場体験合宿」を実施し、今年で6年目を迎える。学校・家庭・地域の中で定着した教育活動として意義があり、生徒の自立心を育むとともに、管内の近隣中学校でも同様の取組を始める学校が現れるなど、先進校としての貢献度が高い。
知夫村立知夫中学校	常・角 敏	キャリア教育の一環として職場体験学習を実施し、その学習期間中に公民館と連携して、自分達で決めた生活ルールに従い炊事、洗濯、掃除、学習活動などに取り組む合宿を実施した。生徒一人一人の自立に向けて礼儀や挨拶、規範意識の向上をめざすもので、取組終了後には、子どもの変容及びふるまいの大切さについて親子で話し合い、合宿の成果を地域にも情報発信している。ふるまいの向上をめざし、学校、家庭、公民館（地域）を巻き込んだ取組である。

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
隠岐の島町立西郷南中学校	富 田 信 吾	学園祭の文化行事として平成6年に始まった「夕暮れコンサート」は、今年度から中村中学校・布施中学校と統合した新生西郷南中学校となっても伝統的行事として継続している。日没時から夜にかけて各学級ごとに作製したステンドグラスを背に、校舎外の昇降口をステージにして行う感動的な野外音楽会で、集団活動として成果があるだけでなく保護者や地域の方の出演もあり、開かれた学校の特色ある行事となっている。
松江市立女子高等学校	花 田 紀美江	平成20年度からチューター制度を導入し、生徒指導にあたっている。教員と上級生が一緒になって下級生に指導し、日頃の活動に取り組むことによって多くの面で生徒指導上の問題が改善された。「NO遅刻デー」や「机の中持ち帰り」などの取組を実践発表している。島根県における生徒指導の顕著な成果として国立教育政策研究所に報告している。
島根県立出雲商業高等学校	坂 本 逸 雄	地域に根ざした商業教育を実践し、出雲にちなんだ商品開発により、出雲を全国にPRする活動を行っている。特に、平成21年度は商業科目「課題研究」の実践で学校が企業と連携して新商品を開発し、実績を上げた。生徒の勤労観や職業観の育成とともに、課題解決能力を育成する教育活動であり、本県の教育の充実・発展に資する取組である。
島根県立飯南高等学校	大 國 晃 資	平成13年度に中高一貫教育推進事業を本格導入し、10年目を迎えた。地元2中学校と連携して行う中高の教員によるティームティーチング授業や高校教員による出前授業、中山間地域研究センターでのふるさと学習やボランティア活動などを通しての地域に根ざした教育活動を展開している。中山間地域の小規模高校の魅力化を図る取組は、本県の教育の充実・発展に資する教育実践である。
島根県立矢上高等学校	飯 塚 修	サツマイモの育苗装置の開発・普及、ゼオライト焼き芋機の開発、ヒートアイランド対策利用などを積極的に研究してきた。これらの成果を発表することなどにより町の農産物のブランド化にも貢献している。地域密着型の高校としての産学官の連携による地域興しの模範的な活動であるとともに、生徒の「生きる力」を育成するもので、本県の教育の充実・発展に資する取組である。

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
島根県立隠岐養護学校	青 山 正 治	平成20年度から隠岐島前高校との「交流及び共同学習」に取り組み、授業では教員相互が乗り入れて指導を行った。部活動では、レスリング部での練習場の提供など学校及び地域の支援により国体優勝等の結果を得た。隠岐養護学校は地域の療育システム会議や研修会に教員を派遣するなどし、離島における特別支援教育の拠点校としての成果を上げている。

(注) 上記の掲載順は、小・中・高・特別支援学校、かつ建制順による。

## 2 団体（2団体）

団体名	代表者職・氏名	表彰の理由
雲南市教育研究会	雲南市立加茂小学校長 高木 広明	雲南市立の全小中学校で取り組んでいる、雲南市のキャリア教育推進プログラムである「『夢』発見プログラム」の4つの重点内容の一つである「生活リズムと『食』」の中の取組として「お弁当の日」は、市内全小中学校の共通題材であり、家庭を巻き込んだ取組である。この取組により家族の会話やふれあいを増やし、子どもたちに「生きる力」や「人への感謝の気持ち」を育成している。
島根県学校図書館協議会	島根県学校図書館協議会会長（飯南町立赤来中学校長） 烏田 勝信	島根県の学校図書館の充実と発展に資することを目的に結成されて以来58年間にわたり、県の学校図書館活用教育をリードしてきた。読書活動推進のための各種コンクールの実施や、学校図書館活用教育に顕著な功績があった学校への「学校図書館奨励賞」授与、学校図書館研究大会や研修会の実施、ホームページによる情報提供などにより県の読書活動推進に大きく寄与している。

（注）上記の掲載順は、団体の代表者の所属校の建制順による。

### 3 個人（5名）

氏名	所属・職	表彰の理由
うるし だに しげ こ 漆 谷 成 子	島根県立松江南高等学校 学校司書専門員	平成21年度から県の重点施策として開始した「子ども読書活動推進事業」における「学校図書館パワーアップ事業」では、主に、県東部及び隠岐地区の推進校のアドバイザーとして各学校図書館の教職員と協議を重ね、学校図書館を児童生徒にとって魅力ある場所へと変貌させた。2年間にわたり小中学校の学校図書館活用教育の整備に大きく貢献している。
たか はし ゆう じ 高 橋 勇 二	出雲市立荒木小学校 事務リーダー	県内事務職員で構成される島根県公立小中学校事務職員研究会の副支部長を長年務めたほか、研究委員会委員長等を務め、事務職員研修のあり方について研修計画案をとりまとめるなど、学校事務の研究を推進した。学校事務の共同実施の確立、教員の事務負担の軽減など、長年にわたる活動により事務職員の資質向上や学校事務の運営改善・効率化に貢献している。
はっ とり しのお 服 部 忍	島根県立江津清和養護 学校 養護教諭	児童生徒の健康課題を把握し、家庭や関係機関と連携しながら、児童生徒の生活に生きる指導を実践している。特別支援学校における性教育について研究し、心を育てる性教育や保健指導に尽力した。県内の研修会では、教材開発やその活用について助言したり講演するなど、性教育や保健指導の先駆者として活躍している。
ふじ い かず こ 藤 井 和 子	吉賀町立柿木小学校 栄養教諭	学校、家庭、地域との連携を柱に、地場産物の活用を通しての食育を推進している。地域とのつながりを深めるとともに、児童の食生活の実態を把握し、個に応じた指導に取り組んでいる。また、家庭科等の教科や学級活動等においてティームティーチングによる授業に積極的に取り組むなど栄養教諭の模範となり、学校給食の充実や食育の推進に寄与している。
み しま きょう こ 三 嶋 恭 子	雲南市立吉田中学校 養護教諭	平成11年度島根県小中学校養護教諭研究大会を研究部長として構想段階から推進し、大会を成功に導く一方、在職校での健康教育活動が評価され、平成13年度に県健康教育優良学校賞を受賞している。また「学校環境衛生」について研究し、中国・全国大会で実践発表している。講師としても活躍するなど、県内の学校保健教育のリーダーとして多大な貢献をしている。

(注) 上記の掲載順は、五十音順による。